



あけましておめでとうございます

本年も森からいただく美味しい空気と、さわやかな葉音と、甘い香りの中で ボランティアの皆さんと幸せを感じながら、作業に 調査に時間を費していきたくと思っています。

昨年12月3か所にとりつけた杉のリースも散策する人々の目を楽しませ、鳥たちのなぐさめにもなったことでしょう。

今年はどうな森の変化を皆さんにお知らせできるのか、作業を通して見識を深めていこうと思います。(野口)



サネカズラ「実葛」 モクレン科 サネカズラ属

茎に粘液を含み、これを煮出して整髪に使ったことから、「美男蔓(ビナンカズラ)」とも呼ばれている。

暖地の山野に生える常緑つる性の木本、葉は互生 長楕円形の光沢が有り厚い

花は直径1.5センチ 淡黄白色で垂れ下がって咲く、雌雄別株又は同株

果実 小さな球形で多数集まって直径2~3センチのボール状になる

こもれびの森にサネカズラは、けっこう繁茂しているのですが、赤い実を見るのがほとんどありませんでした。昨年12月下草刈の折、真っ赤な実が周りの低木に絡み付いて見事なものを見ることが出来ました。図鑑で見ると違い、感動そのものでした。

間伐や下草刈りのおかげで思いがけない発見でした。自然の出会いに感謝です。(野口)



サネカズラの赤い実



サネカズラの花

木もれびの森の野鳥たち 1月

<冬本番、野鳥たちの暮らしは！>

この冬も、11月下旬ころから次々と冬鳥たちがやってきました。そのいくつかを紹介します。

●ツグミの仲間 ツグミはムクヤトウネズミモチの実などをついばんで、シロハラはヤブ下で食べ物探し。アカハラはめずらしく柿の実をつついて、1つ持ち去りました。

●シメ・アオジ 緑道沿いの植え込みやササヤブで身の安全を確保しつつ、時々路上に出てきて、落ちている木の实をついばんで。

●ルリビタキ 冬の小さな青い鳥(♂)。低灌木の多い林で小枝や柵の上で尾を振って、動いた虫を捕らえようと出番待ち。

●カケス カラスの仲間でものまね上手。お目当てのドングリは少ないですが、暗い林が好きで、杉の多い場所で時々見かけます。

●ヒガラ シジウカラによく似ていますが、ずっと小さく、黒いネクタイマークはありません。この冬は針葉樹の高い枝先で10羽前後の群れをよく見ることができます。

留鳥のエナガ、メジロ、シジウカラ、コゲラの混群が回ってくると、冬の森がにぎあうひとときです。でもタカの仲間が突然現れると、森はシーンと静まりかえります。小鳥たちは一斉に身を隠します。

葉を落とした明るい林では針葉樹や低灌木の茂みが、冬こそ命のシェルターとして発揮します。

さて、昨年1年間に観察された野鳥は50種余り。今年はどんな鳥との出会いが待っているでしょう。(瀬尾)



ヒガラ

こもれびの森の樹木(11)

こもれびの森の落葉樹は冬を迎え木々の葉が落ち尽くし、加えて相模原こもれびの冬季の活動は間伐が主な作業なので、森の奥まで見通とせるようになり、森は最も明るい季節で、ひと仕事を終えた後の静かな気配が漂う眠りの森になっています。

樹名板を取り付けた樹木は残り少なくなりましたが、今回はエゴノキとニガキを取り上げます。



エゴノキの花

相模原こもれびでは二次林の代表的な木であるエゴノキの保存育成を目指しています。

エゴノキ(エゴノキ科エゴノキ属)は落葉小高木で樹高7~15m、直径10~20cm、樹皮が黒っぽく、滑らか、根元から株立ちして伸びるので、あまり太くなりません。花は5~6月にベルのような形の花を枝から下向きに、鈴なりに咲かせます。実は1cm程の薄緑色のラクビーのボール形で秋に外皮が割れドングリ状の黒い種が落ちます。



エゴノキの幹

名前の由来は実にサポニンが含まれ、果皮がえぐいことによるものとされています。

園芸種に枝先が垂れ下がるシダレエゴや花が淡い紅色のベニバナエゴノキがあります。



ニガキの花

ニガキ(ニガキ科ニガキ属)は落葉高木で樹高10~15m、直径は20~40cm程になり、樹皮や材、枝、葉、冬芽などに強い苦味があるために名前の由来があります。

樹皮は暗褐色で縦に細長い線があり、花は雌雄異株で、4~5月に開花し、葉は長さ15~25cm奇数羽状複葉で互生、実は9月ごろ黒褐色に熟します。

器具材や細工物に使われ、樹皮や材は健胃薬、殺虫剤などに利用されます。(林)



ニガキの幹